

島根県ハンドボール協会

—— これまでのあゆみ

島根県へ導入と協会設立

昭和38年4月に青山善平氏に会長就任を要請し、島根県ハンドボール協会が設立された。同年4月から8月にかけて、男子が松江工高、出雲農高、女子では松江市女、島根農大附属松江農高でハンドボール部が誕生した。昭和39年から島根県高校総体に出場した。その間、創部や廃部などがあり、現在は男子7チーム、女子4チームである。また、くにびき国体に向けて初めて成年男女のチームも活動を行ってきた。朝酌クラブ、松江クラブ、飯南クラブ、江津クラブ等が活動を始めた。

本番のくにびき国体では総合成績3位となり、強化の成果が表れた。成年男子3位。成年女子は健闘したが入賞を逃した。少年男子4位、少年女子3位。平成30年には全国高校選抜中国予選会で、江津高校男子が島根県勢として初めて決勝戦まで勝ち上がった。平成15年には島根県で初の小学生クラブチーム(HC)江津が江津高校OBOGの尽力により設立された。その後も中学生クラブチーム(HC)江津も設立された。ジュニアの育成強化が本格的に活動できるようになり、全国小学生大会や、全国中学生大会に参加し成果を上げている。

—— 現在の状況

成年の部：勤務の関係等で、週1回程度の活動しか開催できていない。練習環境や参加しやすい体制を構築する必要がある。

高校の部：男子7チーム、女子4チームでの各種大会

を実施しているが、ほとんどの学校が高校生から初めてハンドボールを経験している現状である。上位大会では経験不足が否めない現状である。

中学生の部：島根県の中学校には部活動としてのハンドボール部は設置されていないこともあり、県大会が開催されにくい現状である。

小学生の部：現在(HC)江津の高学年、低学年の活動のみであり、練習試合等は県外へ出向く必要があり、経済的な負担が大きい。

指導者：高校の部活動については、ハンドボール競技の未経験の先生が多いため、外部指導者や地域指導者の力を借りて指導・運営にあたっている。また、少子化により学校の統廃合や部員不足が大いに懸念される。

—— これから

2030年島根かみあり国スポに向けては、松江市・米子市が会場ということもあり、松江地区等でのジュニア活動を早急に行い、普及強化が必要である。また、指導者の適正配置や国スポ推進教員が活動しやすい環境整備が急務である。今後は更に少子化が進み、活動人口の減少が多いに危惧される。将来に向けて、地域挙げての活動体制を早急に構築して、選手・指導者が活動しやすい環境作りを行う必要がある。

そのために島根かみあり国スポが絶好の機会である。島根県ハンドボール協会としても、さまざまな課題解決に向けて全力を尽くしていきたい。



平成20年 HC江津ジュニアが中国交流大会に初出場



平成26年 女子中国交流大会出場のHC江津ジュニア